

2016年(平成28年)11月18日 金曜日 (4)

害獣駆除ドローン活用

キャリアオ技研システム開発へ

3次元CAD設計のキャリアオ技研(本社名古屋市中村区名駅、富田茂社長、電話052・627・0495)は、ドローン(小型無人機)を活用して「イノシシや鹿などの害獣の駆除や追跡ができるシステム」害獣駆除ロボット(SARA)の開発を進めている。情報通信技術(ICT)を活用することで、あらかじめ仕掛けたわなに害獣がかかったかどうかなどがネットで確認できる。ドローンの飛行や電波の取り扱いに自治体の許可が必要なため、愛知県や岐阜県の周辺自治体と協議しながら、実用化を目指す。
(水谷英志)

スピーカーで追い立て、追跡も



ドローンを活用した害獣駆除システムについて説明する富田社長(中央)ら

同システムは、ドローン本体にスピーカーを搭載し、害獣の追い立てにつなげる。追跡してわなにかかったかどうかも分かるため、猟友会による銃器の駆除作業の軽減が期待できる。

ドローンの空撮技術を生かして、夜間の害獣の監視や生態調査も可能。捕獲した害獣に位置情報を取り入れたタグを付けて放すことで、害獣を見失っても位置情報や活動状況、個体数を正確に把握することもできるという。

今年7月に、愛知県設楽町に「生態演習場」を開設。敷地面積は約2600平方メートル。スタッフ10人でチームを組み、実用化に向けた実験を続けている。開発にはこれまで、約1億円を投じた。

富田社長は「隣接する三重県や静岡県との自治体、警察にも協力を呼びかけている。広域連携で害獣による農作物の被害防止を進めたい」と話している。